

一つ歳を重ね「後期高齢者」に

今日 9 月 17 日、また一つ歳を重ねた。世間では「後期高齢者」ということになる。健康保険証も「国民健康保険被保険者証」から「後期高齢者医療被保険者証」に変わる。サイズが倍近くになり、財布に入らないので携帯に不便だ。マイナ保険証を取得しないので、今後どうなるのだろうか？

幼い頃は病弱であり、近所の医者から「この子は 10 歳まで生きられるか」と言われたと、母から何回も聞かされた。写真は名古屋市千種区の国鉄官舎で撮影。5 歳くらいだろうか、だんだん元気になってきた。頭でっかちだったが、手足は細かった。これは今も変わらない。



そんな私が後期高齢者の仲間に入るとは、感慨深いものがある。腰痛や目の病気などに悩まされ病院通いを続けているが、毎日のように図書館や市役所などに行き、新聞・雑誌、新刊書、資料をチェックし、レポートや原稿を書いている。大学退職後の「仕事」をまとめたいのだが。

名古屋から大阪に転居して 6 年近くになるが、コロナ禍の影響もあり体力面で弱ってきたが、精神面では充実している。大阪に来てから、あまりにも「維新政治」がひどいので、大阪市民として積極的に発言・発信するようになった。コロナ禍で大阪維新の会が強行する大阪市廃止・特別区設置の住民投票に腹が立ち、はじめて住民監査請求に加わった。住民投票の日には近所の投票所前でポスターをもって、「一人スタンディング」して大阪市存続を訴えた。

夢洲での万博、IR カジノ誘致についても、「夢洲懇談会」などで活動して情報公開請求と情報発信に努めてきた。夢洲への IR カジノ誘致については、住民監査請求から住民訴訟の原告として活動している。昨年 10 月には原告を代表して大阪地裁大法廷で意見陳述した。今年 2 月に堺市で「夢洲 IR 差し止め訴訟」をテーマに講演した。



6 月からは、UCO(市民情報局ユーシーオオサカ)の「大阪市をウォッチする」という番組に出演している。大阪市議会の傍聴や夢洲万博・IR カジノ、住民訴訟などをテーマに 1 回 10 分ほど話している。毎朝書き続けているレポートのラジオ版である。写真は番組の収録風景。



さて、残された人生をどう生きていくか。後期高齢者になったからと言って、何か急に変わるわけではない。今の生活をできるだけ健康に留意して、持続させていくしかない。昨日、京都で宮本憲一先生にお会いした。先生は 93 歳になられるが、調査研究を続け、各地で講演などをされている。先生のようにはいかないが、私なりにレポート・原稿を書いて、これからも発信していきたい。

(2023 年 9 月 17 日)